

公的年金受給者のみなさんへ

大切なお知らせです

地方税法の改正により、公的年金受給者で個人住民税を納税される人は、平成21年10月以降支払われる公的年金から「住民税の特別徴収(天引き)」が実施されます。

特別徴収は、従来、金融機関や市役所の窓口で納税いただいていた住民税を、公的年金から天引きし、年金保険者(社会保険庁など)が直接納入するというものです。

該当する人は、6月上旬に郵送した「市民税・県民税納税通知書」に、特別徴収される額が記載されていますのでご確認ください。

公的年金の特別徴収へのご理解をお願いします。

問合せ 税務課 ☎(43)1111 内線132、133、134 ・ FAX(43)1125

対象になる人

4月1日現在65歳以上の年金受給者で、前年中の年金所得に係る住民税の納税義務のある人。

ただし、つぎの人は対象となりません。

- ・ 介護保険料が年金から引き落としされていない人
- ・ 特別徴収される住民税額が老齢基礎年金などの額を超える人など



公的年金の
特別徴収へのご理解を
お願いします

改正の趣旨

高齢化社会の進展に伴い、公的年金受給者の納税の利便性を確保するため導入されるものです。

また、この制度は納付方法を変更するもので、新たに負担が増えるものではありません。

▼特別徴収の対象税額(年金所得のみの場合)

(例) 住民税の年税額が6万円(年金所得のみ)の場合

▼去年(平成20年度)までは

	納付書で納める (普通徴収)			
月	6月	8月	10月	1月
税 額	15,000 円	15,000 円	15,000 円	15,000 円
算出方法	1/4	1/4	1/4	1/4

※年税額の1/4ずつ納付書で納付。

▼今年(平成21年度)は

	納付書で納める (普通徴収)		年金から天引き (特別徴収)		
月	6月	8月	10月	12月	2月
税 額	15,000 円	15,000 円	10,000 円	10,000 円	10,000 円
算出方法	1/4	1/4	1/6	1/6	1/6

※6月・8月は、年税額の1/4ずつをこれまでどおり納付書で納付。10月・12月・2月は年税額の1/6ずつ特別徴収。

▼来年(平成22年度)からは

	年金から天引き (特別徴収)					
月	4月	6月	8月	10月	12月	2月
税 額	10,000 円	10,000 円	10,000 円	10,000 円	10,000 円	10,000 円
算出方法	前年度2月と同額			22年度の年税額の残りの1/3ずつ		

※4月・6月・8月は、前年度の2月の税額と同額を特別徴収(仮)し、10月・12月・2月は、年税額から4月・6月・8月の税額を差し引いた残りの残額を特別徴収します。

10月以降、
特別徴収が
始まるんだな…。



広島平和記念式典に

参加して

8月6日(木)広島県で開催された広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に、市が募集した「平和の作文」で最優秀、特選に選ばれた中学生4名が参加しました。平和記念公園の慰霊碑、記念碑、原爆ドームの見学、そして語り部さんによる原爆体験を聞くなど、平和の尊さについて改めて考える貴重な体験をしました。

問合せ 人権推進課☎(43)1111
内線162

参加生徒のコメント

被爆者の原さんのお話や、民団の人のお話、いつもはテレビで見えていた記念式典にまで参加でき、人生初の体験ばかりでした。

特に印象に残ったものは、原さんが実際に体験したことを、真剣に語ってくれたことです。原爆のことは、テレビなどで知っていました。が、私が想像していたものよりも、ずっと恐ろしいものでした。

原爆の恐ろしさを実感している原さんのお話を聞きました。今では考えること



▲原さん(語り部)の話に耳を傾ける参加者

のでないくらい恐ろしいものだっそうです。しかし、その事実と歴史を受け止め、未来を少しでも明るくするため、核廃絶と平和を願い努力している人がいることを知りました。

また、民団の人のお話では、当時の日本が韓国人を労働させたうえに、原爆による被害を出してしまったということも知りました。

そして、記念式典では、毎年多くの人が原爆の被害によって苦しみ、亡くなっているということまで知りました。

実際に広島を訪れてみて、戦争の恐ろしさや被爆者の苦しみ、悲しみが身にしみた2日間でした。

あの日13歳だった原さんは、58年経った71歳の時、大腸ガンをわずらったそうです。原因は64年前に浴びた放射能が体内に存在していたのです。

原爆はこれまで、64年間人々を苦しめてきました。

入退院を繰り返す人もたくさんいて、2009年までに推定26万人が亡くなっていることを知りました。

実際に原爆投下の被害にあったこの広島で、原さんの体験談を聞かせてもらいました。その当時の状況は、目を背けてしまう光景が原爆の跡の焼け野原に広がっていて、とても残酷なものだったと言っていました。

たくさんの方が無差別に生きる権利を剥奪され、人間でありながら人間らしい最後を迎えることもできず、とても苦しみながら亡くなってしまうのです。

生きる権利のほかにも、大切なものを一瞬にして奪い去った原爆の存在を許してはいけなく改めて感じました。



▲献花前の集合写真